

ポーランド政治・経済・社会情勢

(2012年11月8日～14日)

平成 24 年(2012 年)11 月 16 日

H E A D L I N E S

政治

コモロフスキ大統領, 次回国家安全保障会議にセレメト検事総長を召集
 議会がトウスク首相のEU政策を支持
 下院で次期EU多年度予算に関する議論
 独立記念日におけるワルシャワの騒動
 上院, 対人地雷禁止条約を承認
 米空軍航空分遣隊が任務開始
 トウスク首相及びシエモニャク国防相がコソボを訪問
 ポーランド・スウェーデン外相・国防相会談
 チュニジア計画・地方開発相がポーランドを訪問
 コモロフスキ大統領夫妻がベルギーを訪問
 結束政策フレンズ・グループ会合の開催
 コパチ下院議長のスウェーデン訪問
 第12回ポーランド・独政府間協議
 トウスク首相がバローゾ欧州委員会委員長及びファン＝ロンパイ欧州理事会議長と会談

経済

国有財産省が原子力発電所建設に係る特別の入札手続きを検討
 中央銀行がポーランドの成長率が鈍化することを予測
 ポーランド産チーズが好評
 大統領がポーランドの欧州宇宙機関加盟に署名
 PKNオルレン社がシチンでのシェールガスの掘削作業を完了
 ポーランド国鉄, 13の関連会社を売却の意向
 10月のインフレ率, 政府目標の上限に収まる
 ポーランドとドイツが鉄道協定に署名
 動物検疫庁長官, 炭疽症に感染したスロバキア産牛は輸入されていないと発言
 タリズマン社がポーランドにおけるシェールガス開発から撤退する可能性が高まる
 米国系自動車部品製造会社のガーディアン社が1.6億ズロチの拡張投資を行う見込み
 BSH Bosch und Siemens社がZelmer社を買収すべく株式の公開買い付けを開始
 ズロチ安は一時的との見方あり

社会

ポーランド人の若者は海外での仕事を希望

大使館からのお知らせ

大使館の第5回国際チャリティ・バザーへの出展について
 トルンにおける領事出張サービスについて
 ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)について
 東日本大震災義捐金受付について
 文化行事・大使館関連行事

在ポーランド日本国大使館

ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000

http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm

【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届」を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！
 問合せ先 大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書、在外投票、旅券、戸籍・国籍関係の届出についてもどうぞ。

政	治
内	政

コモロフスキ大統領、次回国家安全保障会議にセレメト検事総長を召集【8日】

8日、コモロフスキ大統領は、現在検察庁が行っているスモレンスク事故調査報告に関し、「ジェチポスポリタ」紙に陰謀説が報じられたことを受け、セレメト検事総長を次回の国家安全保障会議(12月19日)に召集する考えを表明。同検事総長は出席の意向を表明しつつ、陰謀説の可能性を改めて否定。

下院で次期EU多年度予算に関する議論【9日】

9日、下院でEU政策に関する議論が行われ、トウスク首相は、超党派でEU次期多年度予算の交渉に取り組むよう各党の協力を仰いだ。与党「市民プラットフォーム」(PO)は、キプロス議長国提案の予算削減案に反対し、EU組織の強化、連帯、結束を主張。

最大野党「法と正義」(PiS)は、財政協定条約に反対の姿勢を表明し、支援依存体質から脱却した経済構造の必要性を主張。野党「バリコト運動」は、ユーロ導入の決断を求めるとともに、PiSの姿勢はポーランドの利益を害するとして非難した。

独立記念日におけるワルシャワの騒動【11日】

11日、無名戦士の墓にて、独立記念日式典が開催され、コモロフスキ大統領ら要人が出席。その後、同大統領は、約1万5千人の参列者らとワルシャワ市内を行進した。他方、極右グループらの行進も別途行われ、一部覆面したフリーガンらが暴徒化し、警察当局に鎮圧される事態に発展した。同騒動で176名が当局によって拘束され、22名が負傷した。

外	交
---	---

上院、対人地雷禁止条約を承認【9日】

9日、上院は対人地雷禁止条約批准法を承認。

チュニジアにおけるポーランドの開発プロジェクトについて関係者と意見交換を行った。

米空軍航空分遣隊が任務開始【9日】

9日、ワスク(Lask)第32戦術航空基地に於いて初のポーランドへの常駐米軍部隊となる航空分遣隊の任務開始式典が行われ、シエモニャク国防相、ムル駐ポーランド米大使を始め、両国防衛関係者、NATO高官らが出席。同分遣隊の任務は、2013年から開始される米空軍機のローテーション展開訓練支援である。

コモロフスキ大統領夫妻がベルギーを訪問【13~14日】

13~14日、コモロフスキ大統領夫妻は、ベルギーを訪問し、アルベール二世国王夫妻、ルポ首相及びファン＝ロンパイ欧州理事会議長と会談した。

トウスク首相及びシエモニャク国防相がコソボを訪問【11日】

11日、トウスク首相とシエモニャク国防相は、独立記念日に合わせてコソボを訪問。KFORミッションに参加中のポーランド軍兵士を激励。

結束政策フレンズ・グループ会合の開催【13日】

13日、トウスク首相は、ブリュッセルで開催されたEU結束政策フレンズ・グループ会合(ポーランド及びポルトガルが共同議長)に出席し、結束政策及び次期EU多年度予算は欧州債務危機克服のために重要であることを強調。結束政策フレンズ・グループには、東欧諸国、バルト諸国、ギリシャ、スペイン、ポルトガル等EU加盟15か国が参加。

ポーランド・スウェーデン外相・国防相会談【12日】

12日、ポーランド及びスウェーデンの外相及び国防相がグダンスクで会談し、欧州共通安全保障・防衛政策(CSDP)、東方政策について協議。シコルスキ外相は、民主主義のための欧州基金に500万ユーロを拠出することを表明、ビルト外相は100万ドルの拠出を表明。

コパチ下院議長のスウェーデン訪問【13日】

13日、コパチ下院議長は、第3回ポーランド・スウェーデン議会フォーラムに出席するため、スウェーデンを訪問。EU内における両国協力、EUの近隣政策、EU統一市場等について協議。

チュニジアのガルビ計画・地方開発相がポーランドを訪問【12日】

12日、チュニジアのガルビ計画・地方開発相がポーランドを訪問し、ナウエンチ外務次官と会談。同相は、ポーランド滞在中、ポーランドの地方自治改革、

第12回ポーランド・独政府間協議【14日】

14日、ベルリンにて、第12回ポーランド・独政府間協議が開催され、トウスク首相及びメルケル首相他両国閣僚の出席の下、次期EU多年度予算等について協議が行われた。トウスク首相は、EUとウクライナとの連合協定について、2013年11月の東方パートナーシップ首脳会合の際に署名可能と発言。

トウスク首相がバローゾ欧州委員会委員長及びファン＝ロンパイ欧州理事会議長と会談【14日】

14日、トウスク首相はブリュッセルでバローゾ欧州委員会委員長及びファン＝ロンパイ欧州理事会議長

長と会談し、次期EU多年度予算について協議。トウスク首相は、ファン＝ロンパイ議長が提示した結束基金からのポーランドへの補助金限度額739億ユーロを好意的に評価。

経 済**国有財産省が原子力発電所建設に係る特別の入札手続きを検討【8日】**

国有財産省は、PGE社が公共調達法の手続きによらずにプラント供給業者を決定することを可能とする方法を検討中。ブザノフスキ国有財産相は、公共調達手続きでは、落札できなかった入札参加者が結果に不服申し立てを行うことで、しばしば選定に係る期間が長引いていると発言している。入札手続きの詳細はPGE原子力エネルギー社が準備中であるが、入札プロセスは2013年春には開始されるので、条件が特別法に規定されることはない見込み。専門家は、公共調達手続き規則に則らない手続きをとることは、EUに反対されるであろうと警告している。

中央銀行がポーランドの成長率が鈍化することを予測【9日】

中央銀行は、7月時点での向こう数年のインフレ率及びGDP成長率予測を下方修正した。7月では2013年のGDP成長率予測を2.1%としていたが、1.5%に修正。中央銀行の報告は、ポーランド経済は明らかにより弱い経済状況に直面しており、マクロ経済指数もこれを裏付ける形となっているとした。長期的な予測では、海外経済動向の改善とともにポーランドのGDP成長率も回復するとした。予想では、経済は本年末に最も急速に減速し、2012年の成長率が2.3%となった後、2013年は1.5%、2014年には2.3%になるとされている。

ポーランド産チーズが好評【12日】

ポーランドでは長年、ポテト、穀物、果樹の生産が農業をけん引してきたが、今日ではチーズ等の酪農製品が注目されている。ポーランドは、世界で6番目のチーズ生産国で、生産量は年々増加し、その多くが輸出されている。ポーランド産チーズは、品質が良い上に低価格で欧州市民の人気を得ている。

大統領がポーランドの欧州宇宙機関加盟に署名【2日】

コモロフスキ大統領がポーランドの欧州宇宙機関(ESA)への加盟に署名した。ポーランドは、11月19日～21日に行われるESA審議会投票権を持つこととなる。同審議会では、宇宙開発の方向性について決定がなされる予定。同機関の加盟料は年間19.2百万ユーロで、加えてオプション料も支払う必要

がある。政府はオプション料の50%を支出する。登録料は一回のみで11.1百万ユーロとなる。

PKNオルレン社がシチンでのシェールガスの掘削作業を完了【12日】

PKNオルレン社は、ルブリン県シチン(Sczyn)のシェールガス井の開発において、水平掘削を完了した。当初60日間を要すると想定されていたが、予定よりも短い39日間で完了した。今後、水圧破碎及び試験生産が開始されることになる。同社のシチンでの最初の掘削は2011年に開始され、採集物を分析したところ、作業を継続するに値する十分な見込みがあることが明らかとなった。同社は現在8つのライセンスを保有し、そのうち6か所がルブリン県に所在する。

ポーランド国鉄、13の関連会社を売却の意向【13日】

ポーランド国鉄(PKP)の最新の事業計画では、2012年～15年の3年間で13の関連会社を民営化し、調達した320億ズロチで430億ズロチに上る負債の返済に充て、残りの負債をユーロ建債の発行及び固定資産の売却で賄う模様。PKPの事業再建のためには関連会社の売却が不可欠であるが、保有する関連会社20社のうち2015年までに売却先が決定しているのは5社のみである。今後は、2012年中に関連ケーブル鉄道会社を売却、2013年に15億ズロチでPKP Cargoの49%の株式を売却、8億ズロチでPKP Energiaを売却する意向。

10月のインフレ率、政府目標の上限に収まる【14日】

中央統計局(GUS)によれば、10月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比で9月の3.8%増より0.4%ポイント少ない3.4%増となり、政府が定める物価上昇率変動幅の許容範囲2.5±1%に収まった。インフレ率が目標域内となるのは2010年12月以降初めて。コア・インフレ率も9月と同水準の前年同月比1.9%増となった。燃料・エネルギー価格が前年同月比9.2%増と大幅に上昇したものの、ズロチ高がインフレに歯止めをかけたと思われ、専門家は12月にはインフレ率は3%程度に落ち着くと予想している。政策金利は11月に引き下げられたばかりであるが、12月に再度利下げする可能性も出てきた。

ポーランドとドイツが鉄道協定に署名【14日】

ポーランドのノヴァク運輸相とドイツのラムザウアー運輸相が両国間国境の鉄道接続に関する協定に署名した。署名は両国首相臨席の下行われ、両国間の鉄道路線の拡張・円滑化を誓約した。

動物検疫庁長官、炭疽症に感染したスロバキア産牛は輸入されていないと発言【14日】

14日、ズヴィアゼク動物検疫庁長官は、12日にスロバキアで炭疽症に感染した牛が確認された件に関し、本年9月9日以降、当該汚染牧場由来の牛はポーランドに輸入されていないと発言。炭疽症は野生動物や家畜が発症し、呼吸や食物摂取によりヒトに感染するが、ヒトからヒトへの感染はない。

タリズマン社がポーランドにおけるシェールガス開発から撤退する可能性が高まる【14日】

タリズマン社は、グループ全体の財務状況悪化のため、ポーランドでの事業から撤退する可能性が高まっている。社員には既にその可能性が伝えられており、予定されていた研修もキャンセルされている。同社グループは第3四半期に7.3億ドルの赤字を出しており、支出削減及び不採算地域での事業からの撤退を進めている。ポーランドについては、最も楽観的な見通しで2014年以降の生産開始であり、タリズマン社にとっては時間がない。同社ポーランド事務所は、まだ最終決定には至っていないと主張する一方、同事務所経営陣は2013年のグループの戦略について知らされていない。タリズマン社はこれまでポーランドで3か所の掘削を行っているが、シェールガスの埋蔵は確認されていない。

米国系自動車部品製造会社のガーディアン社が1.6億ズロチの拡張投資を行う見込み【14日】

米国系自動車部品サプライヤー企業のガーディアン社が、ヴァウブジフ経済特別区に属する既存のポレスワヴィエツ工場に1.6億ズロチを追加投資し、250人を新たに雇用する見込み。現在、同社は190

人を雇用している。同工場では、自動車用シートのプラスチック・パーツを生産しているが、クロム・メッキ生産ユニットを必要としている。ガーディアン社の投資が実行に移されれば、GKN Driveline社、Rhodia社、Valeo Autosystemy社、NGK社、サンデン社といった、景気減速にも関わらず投資を続けている自動車関連企業の仲間入りをするようになる。

BSH Bosch und Siemens社がZelmer社を買収すべく株式の公開買い付けを開始【14日】

BSH Bosch und Siemens社(独系家電製品製造)が、Zelmer社(ポーランドの小型家電製品製造)の全株式を取得すべく、公開買い付けを行った。1株当たり40ズロチを提示しているが、当該価格は前日の取引価格よりも30%上乘せされた価格となっている。BSHが少なくとも75%の株式を取得できれば、買収は成立する。現在、Zelmer社の株式の49%をプライベート・エクイティ・ファンドのEnterprise Investorsが保有しているが、この機会に全株式をBSHに売却する方針。その他の株式は退職基金等が保有しているが、現時点ではこれらがどのように行動するか不明となっている。

ズロチ安は一時的との見方あり【14日】

最近、ポーランド通貨のズロチは減価しており、13日にはユーロに対し0.7%ポイント下げ、ドルが1%減価している。こうした傾向はチェコ通貨のクローナ及びハンガリー通貨のフォリントでもみられるため、ズロチ安は国内要因だけではなく、米国のいわゆる「財政の崖」やギリシャの将来に対する不安等が影響していると市場はみている。ソシエテ・ジェネラル社の中欧通貨アナリストであるブランシャード氏によれば、こうした世界状況は中欧を含むすべての新興国通貨に影響を与えつつ、1ズロチ=4.2ユーロまでズロチが減価する可能性もあるとしているが、その可能性は低いとし、「ポーランド経済は堅調であり、ポーランド国債は常に海外資本を引きつけるであろう」と述べている。

社 会**ポーランド人の若者は海外での仕事を希望【13日】**

最近の調査によると18歳～24歳のポーランド人の38%が近い将来海外で働くことを計画しており、15%が海外の仕事のオファーがあれば受けると答えている。過去10年間に海外で仕事をした経験のあるポーランド人は330万人(このうち240万人はEU

加盟後)で、年代別にみると、18歳～24歳で10人に1人、25歳～34歳で4人に1人となっている。就労希望先は、ドイツが第1位で全体の36%、イギリスが次いで21%となっており、職種別では26%が熟練労働者、22%がサービス業となっている。

大使館からのお知らせ**大使館の第5回国際チャリティ・バザーへの出展について**

大使館は、大使夫人の会である「SHOM」主催の第5回国際チャリティ・バザーに出展することになりました。バザーの開催時間・場所は以下のとおりです。ご来場の際には、是非、日本大使館ブースにもお立ち寄りください。

日 時： 11月25日 10時～17時

場 所： マリオット・ホテルGrand Ballroom(日本式2階)及びBaltic Room(日本式3階)

入場料： 5ズロチ(日本式1階のエスカレーター横で販売)

トルンにおける領事出張サービスについて

大使館は、11月17日(土)10時から13時までの間、Hotel Mercure Helios (ul. Kraszewskiego 1/3 Torun)において、領事出張サービスを実施します。詳しくは下記HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/j_20120913.html

ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)について

当館HP上に、「ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)に関する情報を掲載いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/documents/haga_pamphlet.pdf

東日本大震災義捐金受付について

当館における東日本大震災義捐金受付は、平成25年3月31日(日)までに延長いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin_j.htm

文化行事・大使館関連行事

【開催中】第32回日本文化デー【11月14日(水)～30日(金)】

ウッジにて、梅田良忠教授記念ポーランド日本語教育文化センター主催による、第32回日本文化デーが開催されます。日本に関する講演、日本映画上映、日本人形展等、日本文化を紹介する様々なイベントが予定されています。

問合せ先：梅田良忠教授記念ポーランド日本語教育文化センター(住所：Plac Wolnosci 14, Lodz, E メール：bunka1@home.pl, ホームページ：<http://bunka.org.pl/>)

開催場所：ウッジ考古学・人類学博物館(住所：Plac Wolnosci 14, Lodz, 電話：42 632 84 40, ホームページ：<http://www.maie.lodz.pl/>)

【予定】ヨーロッパ新極真空手選手権大会【11月16日(金)～17日(土)】

キエルツェにて、キエルツェ極真空手クラブ主催による、ヨーロッパ新極真空手選手権大会が開催されます。規模が大きい大会であり、ヨーロッパ各国及び日本から数百名の選手が参加する予定です。

問合せ先：キエルツェ極真空手クラブ(電話：+ 48 602 127 363, Eメール：info@eckaratekielce2012.pl, ホームページ：<http://eckaratekielce2012.pl/>)

開催場所：Hala Legionow (住所：Boczna 15, Kielce, ホームページ：http://www.mosir.kielce.pl/obiekty.php?oPath=4&obiett_id=12)

【予定】第1回ポーランド将棋選手権大会【11月17日(土)～18日(日)】

当館広報文化センターにて、第1回ポーランド将棋選手権大会が開催されます。北尾まどか女流プロ棋士も参加されます。同イベントには将棋に関心をもっている方はどなたでも参加することができます。詳細については、当館のホームページ(http://www.pl.emb-japan.go.jp/kultura/j_shogi_2012.html)をご覧ください。

問合せ先：神尾(Eメール：n.kamio@emb-japan.pl)

開催場所：在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話：22 584 73 00, Eメール：info-cul@emb-japan.pl, 住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa)

【予定】剣技衆かむみポーランドツアー2012【11月16日(金)～21日(水)】

ワルシャワとウッジにて、東洋文化・スポーツセンター「ソト」主催による、剣技衆「かむみ」及び歌手小林未郁

氏の公演が開催されます。剣技衆「かむゐ」は、高度な剣の技と既成の枠にとられない表現方法で、形式美と武術と芝居を融合したパフォーマンスを行います。ワークショップも予定されています。詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://soto.waw.pl/kamui>

問合せ先: 東洋文化・スポーツセンター「ソト」(住所: Karolkowa 28, Warszawa, 電話: 22 299 01 30, Eメール: soto@soto.waw.pl, ホームページ: <http://soto.waw.pl>)

【予定】 ATOKATA 篠山紀信写真展【11月21日(水)~1月20日(日)】

カトヴィツェの現代美術ギャラリーBWA 主催にて、篠山紀信氏による東日本大震災の写真展「ATOKATA」が開催されます。詳細は以下のHPをご覧ください。

http://www.bwa.katowice.pl/p/306/kishin_shinoyama_atokatalady_wystawa_fotografii/

問合せ先・開催場所: 現代美術ギャラリーBWA (住所: Wojciecha Korfantego 6, Katowice, 電話: 32 259 90 40, ホームページ: <http://www.bwa.katowice.pl/>)

【予定】「日本へもっと近く」日本文化イベント【11月25日(日)】

ザブジエにて、学生クラブ「アイキドウ」主催による、日本文化イベント「日本へもっと近く」が開催されます。合気道デモンストレーション、折り紙ワークショップ等、日本文化を紹介する様々なイベントが予定されています。

問合せ先: 学生クラブ「アイキドウ」(Eメール: aikido.ruda@gmail.com)

開催場所: ザブジエ市スポーツセンター (住所: Matejki 6, Zabrze, 電話: 32 271 66 40, ホームページ: <http://www.mosir.zabrze.pl/>)

【予定】「忠臣蔵。47人の浪人」浮世絵展示【11月30日(金)~4月20日(土)】

クラクフ日本美術技術博物館「マンガ」にて、浮世絵展示「忠臣蔵。47人の浪人」が開催されます。

問合せ先・開催場所: 「マンガ」日本美術技術博物館 (住所: ul. Konopnickiej 26, Krakow, 電話: 12 267 37 53, Eメール: muzeum@manggha.krakow.pl, ホームページ: <http://www.manggha.krakow.pl/>)

この資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

皆様からの情報提供をお待ちしています

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまでご連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますのでご了承ください。)

【お問い合わせ・配信登録】

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先メールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のアドレスまでご連絡ください。

大使館ウェブサイト(http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm)も併せて御覧ください。

在ポーランド日本国大使館 newsmail@emb-japan.pl

(ご連絡は電子メールでお願いします。)